



## 「附中の誇り」について今一度考えよう

附属光中学校には本校出身の先生が数多く勤務されています。中学生として附中で過ごす時間はみなさんと違いますが、先輩方はどのようなことを思いながら過ごされていたか知ることで、「附中の誇り」について考えることができるかもしれません。お忙しい先生方ですが、今年度の附中祭を控えている3年生のために「私と附中祭」というテーマで振り返ってもらいました。

### 河村 崇文 先生

中学3年生の夏休み。受験生なのに勉強できていない！部活を頑張りたいのに練習できていない！中生活最後の夏休みなのに遊べていない！ああああ！附中祭の準備よりもしたいことがたくさんある！！と思っていたような気がします。それでも弁当と大きな水筒をカバンに入れ、自転車で10km離れた家から毎日通い、合唱練習やクラブ活動、係活動を頑張っていたように思います。今思うと不思議です。何が僕を動かしていたのか。係長としての責任感から？先生や友達に迷惑をかけるのが嫌だったから？色々考えますが、どれもしっくりきません。でも一つだけ言えることがあります。それは…あのとき僕は確かに附中生だった。附中生だから附中祭を頑張ろうと思ひ、頑張れたのだと思います。みなさんも、最後の附中祭を通して、真の附中生になってください。応援しています！

### 梅田 彩味 先生

附中祭の準備期間として、夏休みは毎日登校し、忙しく、とても充実していました。なぜ頑張れたのかと振り返ると、やはり附中祭に対して、特別な思いをもっていたからだと思います。体育部門・広場部門・文化部門、合唱に係・クラブ活動、どの活動にも全力でいたから、一番の思い出は何かと聞かれても選ぶことができません。全ての活動に、自分なりの思いをもって真剣に取り組んでいました。皆との合唱練習も大好きでした。クラスの多くの生徒が一生懸命で、歌うことを楽しんでいました。最優秀賞をとった瞬間の感動は、不思議と今でも覚えています。どの活動にも全力で取り組むことの意味を、自然と考えていたように思います。附中祭を成功させることは、「友達との協力、自分自身の成長、そしていつも支えて下さる方々に感謝の気持ちを届けること」につながると思います。今しかない時間を、大切に過ごしてほしいです。

### 岩本 正信 先生

第4回附中祭。“追求”というテーマのもと附中祭を行いました。私たちの附中祭は、それまでの附中祭と違う形で行われることになり、先生たちと激しくぶつかったことを今でも覚えています。それまでは、体育部門→広場部門→文化部門の順番で行われていた附中祭を、日程の関係で、文化部門→広場部門→体育部門の順番に行われることになったのです。2年間、文化部門が終わり厳粛な雰囲気で行っていたのに、体育部門で閉会式を迎えるということに想像ができなかったので、何度も担当の先生と会長さんたちが交渉に行っていたことを覚えています。先生たちも、私たちの言いたいことや気持ちを理解してくださり、閉会式を特別な形で行ってくださいました。それは、体育部門の終わりを日没間近の時間に設定してくださり、全校生徒がグラウンドでトーチに灯をともし閉会式を行ったのです。今までにない附中祭でグッとくるものを感じました。附中祭は、先生と一緒に生徒自らの手で作っていくものだというを実感しました。これは、今も続いている附中のよいところだと思っています。

### 金光 修一 先生

以前、学校だよりに書かせていただいたとおり、私が附中生だった頃は、まだ附中祭は始まっていませんでした。そんな私が現在の附中祭を観て感じるの、やはりこの三日間に注ぐエネルギーはすごいということです。私は本校に着任して三年目になりますが、来た年に経験した附中祭には圧倒されました。なんとといっても公立中学校で行っている体育祭、文化祭が三日間の中で行われるわけですから…。そして、音楽の授業では、いきなりテーマソングの練習に始まり、附中祭まで“とにかく合唱！”このエネルギーを私も持続させることに精一杯でした。でもそれだけに達成感はハンパない感じでした。そんな附中祭も今年、令和に突入です。このものすごい伝統を何年も続けていることは、夢のような話です。でも、これからも続くことを願ってやみません。